

石造地藏菩薩立像



〔指定年月日〕平成二年一月二四日  
〔種別〕有形民俗文化財（信仰）  
〔名称〕石造地藏菩薩立像  
〔点数〕一基  
〔所有者等〕長龍寺  
〔所在地等〕高円寺南二―三一―二

## 石造地藏菩薩立像

像高一七四cm、いく分赤味を持った良質の伊豆小松石に彫成されており、江戸時代中期の宝永五年（一七〇八）、当時七世玄叟の代に造立された等身大の石仏である。像容は端正でゆったりとしており、容貌も整って美しい尊顔を表し、衣紋などの彫りは丁寧で流麗に仕上げられている。同時期の地藏石造としても秀逸な作柄を示している。

左袖口に手首を差し込んだと考えられる柄穴のあるところから、左手は宝珠を持っていたものと思われる、また台座の右足前の所には小さな穴があるので、右手には金属製の錫杖を持っていたものと推測される。

本堂西側の地藏堂に安置されている本像は俗に豆腐地藏と呼ばれているが、その由来については「長龍寺縁起」に次のように記されている。元文年間（一七三六〜四一）の頃、市ヶ谷左内坂下（新宿区）の豆腐屋に地藏が小僧に化身して豆腐を買いに来たが、木の葉の銭を使つたところから怪しまれ、寺社奉行輩下の役人に斬りつけられたと。本地蔵の欠失した右耳はその際斬られたものだという。

長龍寺が市ヶ谷左内坂から現在地へ移転したのは明治四二年（一九〇九）で、本像は補修、欠損はあるものの、江戸時代豆腐地藏として府内に広く知られた地藏で、技術的にも優れた貴重な資料である。

### 【文化財所在地】

